

無染土いぐさの畳表への加工特性					
[要約] 無染土畳表には「いそなみ」より部分変色茎が少なく色調で優る「筑後みどり」が適する。無染土いぐさの退色は染土を拭き取った泥染めいぐさと差がない。無染土いぐさはかし後製織できるまでの時間が長く、製織後の乾燥は遅い。					
担当部署	筑後分場・い草研究室			連絡先	0944-32-1029
対象作目	いぐさ	専門項目	農産加工	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

無染土いぐさは、最近の消費者の健康志向のニーズおよび生産現場での作業環境の改善と生産コストの低減のため要望されている。一方、無染土いぐさの欠点を補う部分変色茎が少ない特性を有する「筑後みどり」の育成により無染土畳表への利用が期待された。そこで無染土畳表の加工技術を確立するため、無染土いぐさの加工特性を明らかにする。  
(要望機関名：筑後農林(H10))

[成果の内容・特徴]

1. 無染土畳表の品種としては「筑後みどり」が「いそなみ」より元白では劣るものの、部分変色茎が少なく色調が優るため適するが、無染土畳表は、元白、部分変色茎が目立ち、色調も泥染め畳表より劣るので、用途は健康志向に対応した特殊物として限定される(表1)。
2. 紫外線による退色程度は泥染めいぐさより無染土いぐさが大きいものの、泥染めいぐさの染土をふき取って退色させた場合と無染土いぐさとでは差がない(表2)。
3. 生いぐさの乾燥速度は無染土と泥染めで差がないものの(データ略)、製織後の乾燥速度は無染土畳表が泥染め畳表より遅い(図1)。
4. 無染土いぐさは泥染めいぐさよりかし後製織できるまでの時間が長い(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 無染土いぐさの加工技術資料として活用できる。

[ 具体的データ ]

表 1 品種が異なる畳表と染土の有無の嗜好性<sup>1)</sup> (平成10年)

項 目	品 種 <sup>2)</sup>			染土の有無 <sup>3)</sup>		
	筑後みどり	いそなみ		泥染め	無染土	
色 調	12	0	**	9	3	
元 白	2	10	*	11	1	**
部分変色茎	12	0	**	12	0	**
総 合	11	1	**	9	3	

- 注) 1. 評価はいぐさ関係者12人による 2点嗜好試験法  
 2. 品種の比較は無染土  
 3. 染土の有無の品種は「筑後みどり」  
 4. \* 印は 5%、\*\*印は 1%水準で有意差あり

表 2 無染土いぐさ及び泥染めいぐさの退色<sup>1)</sup> (平成10年)

	退 色 前			退 色 後			退色前後 の色差 <sup>2)</sup>
	L *	a *	b *	L *	a *	b *	
泥染め	44.2	-4.18	9.9	48.3	-1.23	13.4	6.2 a <sup>3)</sup>
無染土	39.3	-4.53	14.5	46.2	-1.21	18.7	8.8 b
染土拭き <sup>4)</sup>	42.2	-5.12	13.0	48.1	-0.88	17.2	8.4 b

- 注) 1. 紫外線オートフェードメータを用い63℃、35%で20時間処理した。  
 2. 色差の表示はN.B.S単位で表し、色差の感覚は、0~0.5:かすかに、  
 0.5~1.5:わずかに、1.5~3.0:感知するほど、3.0~6.0:目立つほど、  
 6.0~12.0:きわめて著しく異なるほどの差である。  
 3. 異なる英小文字間に5%で有意差あり。  
 4. 泥染め乾燥いぐさの表面をティッシュペーパーで拭いた

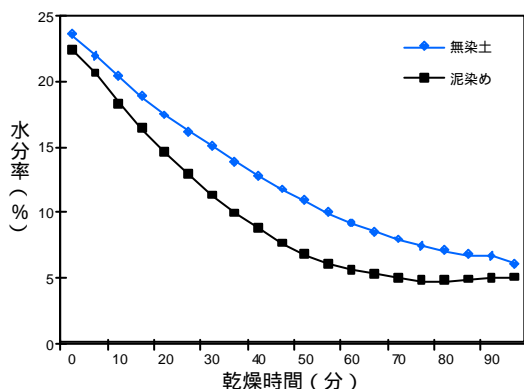


図 1 無染土表と泥染め表の水分率の変化 (平成11年)

- 注) 1. 打込み重量1.8kgの畳表  
 2. 気温32℃、湿度35%の天日干し

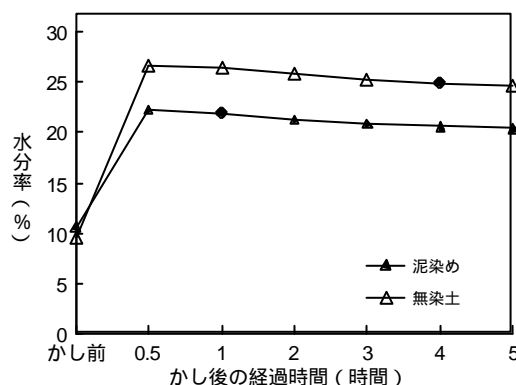


図 2 かし後の原草の水分率の変化 (平成11年)

- 注) 1. は製織可能

[ その他 ]

研究課題名：無染土いぐさの加工法及び染色技術の確立  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成12年度 (平成10~12年)  
 研究担当者：北原郁文、住吉 強